平成25年度　水産振興協議会議事録

日時：平成26年3月14日（金）　午後2時～午後4時

会場：由良コミュニティセンター　会議室

出席者

　　・協議会委員（欠席者：佐藤　ちじ）

　　・事務局（五十嵐農林水産部長、小笠原農山漁村振興課長、五十嵐産業課長、本間主査、石塚主任）

1. 開　会　小笠原課長

　　　　（委嘱状の交付：松本一夫、本間實、茂木省三）

1. 挨拶
2. 農林水産部長挨拶
3. 会長挨拶

　設置要綱第6条により、五十嵐会長が議長となる。

1. 報告
2. 平成25年度事業報告　事務局より一括説明

【質疑等】

・港湾について伺いたい。①加茂港の金沢漁港の枯葉対策をどうするのか。②加茂港の水深が4.5ｍでは港湾として浅いのではないか。③加茂地区の道路が狭隘なことから拡幅できないか。

→①について、なぜ枯葉が漂着するのか原因調査を行ったが結論が出ていない。今後も抜本的な解決に取組みを進めるが、今のところ、毎年早めに除去する方法で維持をする。②については、以前の港湾計画では当時の鳥海丸を設定して水深5ｍとしていたが、現在の鳥海丸は小型化となり水深4.5ｍでも十分である。ただし、今後大型船が入港の計画がある等状況が変われば、港湾計画の見直しを図る。③道路の問題は、道路管理者の部門である。加茂地区の道路が狭隘である状況は把握していることから、港湾管理者としても改良を望んでいるので、地元とともに要望をしたい。

・漁業後継者育成事業の小中学生の漁村体験について、毎年鼠ヶ関で7月に行っているが、7月は底曳船が休漁の時期なので、事業そのものは良いことなので協力はするが、時期について漁をしているときに合わせてほしい。

→毎年中学校のキャリア職場体験の時期に合わせてやっていたので、7月上旬になっていた。今後はどのように予定されているか未定であるが、引き続き協力をお願いする。

1. 協議
2. 平成26年度事業計画について　事務局より一括説明

　【質疑等】

・水産基盤整備に浚渫工事として鼠ヶ関港泊地浚渫とあるが、その他に浚渫工事はないのか。

→市の浚渫工事については、地形的に砂が溜まる三瀬漁港、油戸漁港は定期的に浚渫を行っている。温海地域については、岩盤地域なので毎年浚渫は必要が無い状況である。ただし、平年的に徐々に溜まっていきますので、小岩川漁港では数年前に実施しましたが、今後少しずつ浚渫が必要になってくるところがあると思う。早田漁港については近々浚渫が必要と想定している。

→加茂港の金沢地区については、浚渫と言っても枯葉除去を毎年行っているが、今年は現在入札の公告をしており、3月末に開札をして、4月に契約の予定でいる。鼠ヶ関港についても同じように手続きを進めている。

→県管理漁港の小波渡・由良については、4月に由良漁港、5月位に小波渡漁港の浚渫を行われる予定である。

・最近工事を発注しても受注業者がいないとかで、工事が遅い時期になっているために漁港の入出港に不便を感じているとともに、工事がやれるのか漁業者も不安を感じている。また、県も港湾も抜本的になぜ砂が溜まるのかを検討して、砂が溜まらないようにする方向で進めるよう要望する。

・金沢漁港の枯葉の件で、毎年金沢の枯葉を取って積んでおくが、秋になると風で飛んでしまい、近くの磯場の底に沈んでいる。春先に、その場所にアワビの稚貝を放流するが、最近アワビが育たないし、底にたまる枯葉も厚くなってきたためサザエも取れなくなっている状況で、加茂の磯見の人たちから何とかできないかと言われている。堆積も増えているので調査してほしい。

→調査する。

・遊漁対策振興事業の海洋釣堀運営とあるが、どのような内容か。

→由良にある釣堀のことである。昭和54年頃に整備したもので、当時は釣りがブームで漁業にも影響があったことから、釣人と漁業者とうまくマッチングできるように釣堀を作った。名称は遊漁対策振興事業となっているが、由良の釣堀の運営事業である。一般の遊漁者を対象にしたものではなく、釣堀の運営のための事業費です。

・漁業経営安定対策は１～３まであるが、平成26年度も引き続きやっていくととらえて良いか。

→継続して事業を進める。

・7の内水面漁業の振興の（１）内水面漁業振興事業補助金とあるが、平成25年度からサクラマスの養殖から放流事業を県の内水面試験場で行っているが、今後は山戸漁協としてサクラマスに取組んでいくこととしているので、補助金の嵩上げを受けられるか。

→内水面振興事業補助金については、当面、個々の事業で拡大するから増やすという考えはない。5つの内水面漁協へ一体になっての補助事業であることから、山戸漁協が多くなったから他を減らすとはいかないので、その中での調整となる。ただし、山戸漁協が新たな取組みを試験的に何年間目指してやりたいということであれば、別に相談していただきたい。

1. 水産振興に関する協議

【質疑応答】

・魚の大漁祭りで鼠ヶ関は春、由良は秋に毎年開催しているが、市からも協力をしていただき大変ありがたい。このイベントのチラシ公告にかかる経費がかなり掛かることから、宣伝費として市からお願いできないか。

→市では、イベントの宣伝としてＹＢＣラジオ放送を使っており、その経費を負担している。

・以前はポスター作成等にも助成していただいたが、予算を多くすることでチラシ宣伝もお願いできないか。

→予算も以前からすると削減されていることから、鼠ヶ関と由良と協議してチラシかラジオのどちらかを選択していただいている。両方に対する支援は難しい。

・全国豊かな海づくり大会について、漁協の本所で沖縄県大会のビデオを見たが、相当大がかりなことをしていたので覚悟がないと出来ないと感じた。鶴岡市もイベントを結構行っているので、市民の心にもっと植えつけないともう2，3年しかないので、あれだけの大会は出来ないのでないか。

→今年の春には主要会場が決まる予定である。それがわかってから初めて力を入れられる。

・沖縄ではすごいことをしていたことから、間に合うのかなと感じている。

→県でも視察に行っていることから、大丈夫であると思う。

→今年は県庁に準備委員会が出来て、26年度から知事をトップとした実行委員会を立ち上げることから、少しずつ具体的なことが決まってくると県の方から案内等が出てくると思います。

・栽培漁業センターではどういう魚種を育てているのか。

→放流用としてアワビ、ヒラメ、クロダイ、モクズガニ、トラフグです。養殖用ではクロソイです。

・以前は漁業者の意見を聞いてクルマエビ等を栽培していただいたことがある。今後も漁業者のニーズに沿っていただくようお願いする。

・山形県の魚のサクラマスについてであるが、当初は大々的なものであったが、近年は県の魚と認知している県民が少ないと感じている。全国豊かな海づくり大会では何の魚を放流するかわからないが、鶴岡市ではどのくらい放流しているのか。また、県全体での放流数が判れば教えてほしい。

→鶴岡市では、赤川漁業組合で7万匹と市の稚魚放流事業で700匹を放流している。

→県全体では約40万匹である。

・県の魚であることをもっとアピールするようにお願いする。

→認知度が低いことから、今回の全国豊かな海づくり大会でも一つのシンボルとして使うなどしたい。

・赤川漁協としてもサクラマスの養殖、稚魚放流を漁協単独で30万匹ほど行っている。内水面と海水面の両方が協力していかないと育たないと思うことから、よろしくお願いする。

・温暖化の影響かサクラマスが年々取れなくなっている。

→県でもサクラマスの解禁を3月1日に縮小するなど、サクラマスを増殖する取り組みを進めているところである。今後も漁協からの協力をお願いする。

５．その他

　特になし

６．閉　会　　五十嵐農林水産部長